

## バリ島研修報告 1日目

～ 在デンパサール日本国総領事館表敬訪問・ケチャダンス(ウルワツ寺院)鑑賞 ～

小澤和恵  
(こども学科 教授)

1日目 (2月27日)

ホテルを出て、スーパーマーケットに寄り、現地の日常用品などを見ながら買い物をする。その後、ジャラフードコートで昼食をとる。インドネシア・ルピアを初めて使う学生たちは、少し戸惑いぎみであったが、グループごとについてくれたインドネシア学生のアドバイスや通訳のおかげで、安心して買い物と食事を終了する。



スーパーマーケット前で



フードコートでの昼食



在デンパサール日本国総領事館表敬訪問を行う。



入口では守衛の方たちも快く写真撮影

セキュリティチェックを受けて中に入らせていただく。カメラなどは預けるので、中での撮影はできない。約束の時間になり、首席領事の大橋領事からインドネシアの状況や、領事館の仕事などの説明をいただく。大橋領事は、昨年5月30日に着任されたそうで、その前にもジャカルタの日本大使館でお勤めをされた

との事。インドネシアは、30を超える州からなり、バリ島はバリ州である。在デンパサール日本国総領事館は、バリ州、西ヌサトゥンガラ州、東ヌサトゥンガラ州を管轄しているそうだ。昨年度、バリ島を訪問した日本人は約23万人で、オーストラリア、中国に次いで3番目に多い。長期滞在している日本人は約3,000人で、3ヵ月以上滞在する時は在留届けが必要である。

総領事館の仕事は、観光や長期滞在で来ている日本人を事件や事故から守り、安全・財産を保護すること、そして、インドネシアのビザ申請や、日本のことを紹介していく広報活動も大切な仕事である。また、日本国政府を代表して、インドネシア政府との間で何かあった時は、日本の味方になってもらえるように交渉することや、インドネシア政府からの要請を日本政府に伝えていくことも大きな仕事である。

バリでは、日本語の興味がとても高いということで、40万人に近い高校生が日本語を勉強している。観光業が全体のなかで占める割合が多いため、通訳ができるように、教育の分野でも重要視されている。幼児教育に関しても、日本で保育園をやられていた人が、バリで幼稚園をやっているなど、今後、国境を越えて、お互いの幼児教育の良いところを取り入れながら、教育の発展につながることを期待している。

以上、1時間近いお話をいただき、その後、質疑応答の時間をいただいた。

Q. 総領事館で働いているひとの人数は？

A. 日本人が7名、インドネシア人が15名で22名です。

Q. バリと日本の連携はどのように取っているのか？

A. してほしいことを伝えて、してもらいたいことを受け取る。

具体的なこととして、インドネシアの社会的問題が、ごみ処理と車の渋滞です。

これに対し、日本の「渋滞学」からのアプローチを紹介するなど、様々な分野で日本のknow-howを紹介しています。

Q. 長期滞在の方たちはどのような理由ですか？

A. 結婚や定年後の長期滞在。

ホテルなどの観光業のためや飲食業についている方が多いです。

Q. 日本をどのようにPRしていますか？

A. ①日本語学部のある大学などで行われる日本文化祭や日本語弁論大会など、日本を紹介するイベントなどを協賛するなどの支援をしています。

②日本から来るイベント、たとえば浦和レッズの監督が「世界の子どもたちにサッカーを」という企画で来てくれる時など、地元のテレビ局やラジオ局、新聞などのメディアに取材・掲載をお願いしています。

③総領事館のHPで日本を紹介するコーナーをおいています。必要なリンクをはって、情報を提供しています。

その他、地方自治体や企業とタイアップや、留学生の支援の幅を広げていきたいと考えています。

最後に、インドネシアで大切にされている「Tri Hita Karana トリ ヒタ カラナ」という人生哲学の言葉を教えていただいた。

- ①人と神との調和
- ②人と人との調和
- ③人と自然との調和

この3つが、インドネシアの生活の基調となる考え方ということで、大変心に響いた



在デンパサール日本国総領事館 HP に掲載された写真  
(千葉総領事も加わってくださり記念写真を撮っていただきました)

この後、ケチャダンスの鑑賞のため、ウルワツ寺院に向かう。ウルワツ寺院は断崖絶壁の上に建つ寺院で、バリ島を守っていると信じられている4大寺院の内のひとつだそう。サンセットの中でケチャダンスが鑑賞できるスポットとして有名である。

寺院に入る前に、サロン（腰布）とスレンダン（帯）を着用する。そして、「サングラス、ピアス、髪飾りの類はサルに盗まれないように外して下さい。」という注意がある。



サロンかスレンダンを身につけて



早速 サルがお出迎え

会場に入ると、段になった席はほぼ満員で、空いているところを見つけて座って、18:00の開演を待つ。サンセット前の海も静かでとても美しかった。開演直前に、お坊さんが会場に入って来てお祈りを捧げ始める。



サンセットを待つ海



開演前のお祈り

開演のアナウンスと共に、上半身裸の男性演者達が、両手を上に挙げて「シッポ、シッポ」と声を出しながら、門から会場内に入って来る。あっという間に円陣になって座り、「ケチャ ケチャ…」と何とも言えない、声だけのアンサンブルが響く。

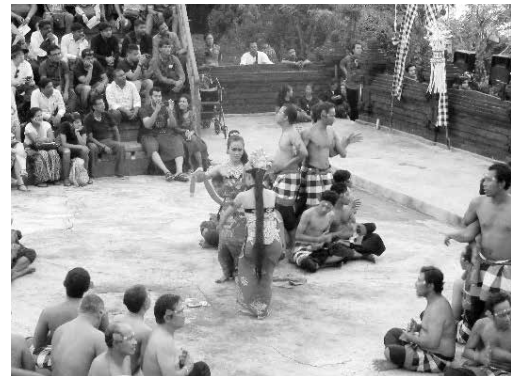


円陣の中に、先ほどのお坊さんが入り、お祈りをして、聖水が演者たちに振り掛けられる。

そして、声によるパフォーマンスの中、ヒンズー一教の創世神話の一部が踊り手たちによって演じられていった。会場で配布された資料をもとに、ストーリーを紹介する。

ヒンズー神話による最初の国、「アヨディア王国」のラマ王子とその妃であるシータ、そしてラマ王子の弟のラクサマナは、邪悪な陰謀によって国から追放され、長い間森を彷徨う生活を強いられていた。そんなある時、悪の魔王ラワナはこの3人を発見し、美しいシータに魅了されてしまう。なんとかシータ妃を自分のものにする為、ラマ王とラクサマナからシータを引き離そうと企んだ。ラワナは魔王の化身である「黄金の鹿」を使い、魔法に掛けられたシータは、ラマ王子に「黄金の鹿を捕らえて欲しい」と懇願する。ラマはシータが魔法に掛っているとは知らず、愛する妻の頼みを叶える為、弟のラクサマナにシータの安全を託して黄金の鹿を追って森へ向った。ある日、シータはラマの助けを求める叫び声を聞いたような気がした。シータはラクサマナに見に行くように言いつけるが、兄のラマからシータの安全を託されていたのでシータを独り残して行く事に責任を感じた。シータは自分の言いつけを拒否するラクサマナに対して「兄を見殺しにして自分と結婚したいのだろう」と勘ぐる。ラクサマナはシータの言葉に怒り、自分の潔白を証明する為に見に行く事を決意する。ついにシータは森の中に独り取り残されてしまった。そして、シータの前に姿を現す魔王ラワナ。直接シータの気を引こうとするが失敗し、次は魔法で自分自身を老人バガワンの姿に変えシータの前に再び現れる。シータは老人が魔王ラワの化身とは知らず老人を気の毒に思って油断してしまった為に、ついに捕らわれてしまった。シータの逃げ惑う声に聖鳥ガルダが空から現れ彼女を助けようとするが、その思いも叶わず、魔王ラワはシータを自分のアンレカ宮殿に連れ去っ

てしまうのだった。魔王ラワナは捕虜となったシータの世話役として自分の姪であるトゥリジャタをそばに付かせた。その頃、ラマはシータが魔王ラワに捕らわれた事を聞き、白猿のハヌマンにシータを見付け出す様に依頼する。捕われの身となり嘆き悲しむシータを、トゥリジャタは慰め元気付ける日が続く…。そんな二人の姿をハヌマンは遂に見付け出し隠れて様子を見ていた。突然ハヌマンはシータの前に現れる。シータはこの白猿も魔王ラワナの化身か?と疑うが、ハヌマンはラマから預かった指輪を差し出し、その指輪が間違いなくラマの物であることがわかり、シータも自分の髪飾りをハヌマンに預け、自分の無事をラマに伝えるように頼む。ハヌマンは宮殿を去る前に、宮殿を壊し暴れた。しかし、捕えられ、火の中に投げ込まれて焼き殺されそうになる。ハヌマンは燃え盛る火中で目が覚め、何とか無事に逃げ出すことに成功するのだった。



公演が終わる頃には、すっかり美しい夕暮れに包まれ、独特の歌とダンスの世界の余韻が残る。そして、「Tri Hita Karana トリ ヒタ カラナ」の言葉が思い出しながら会場を後にした。